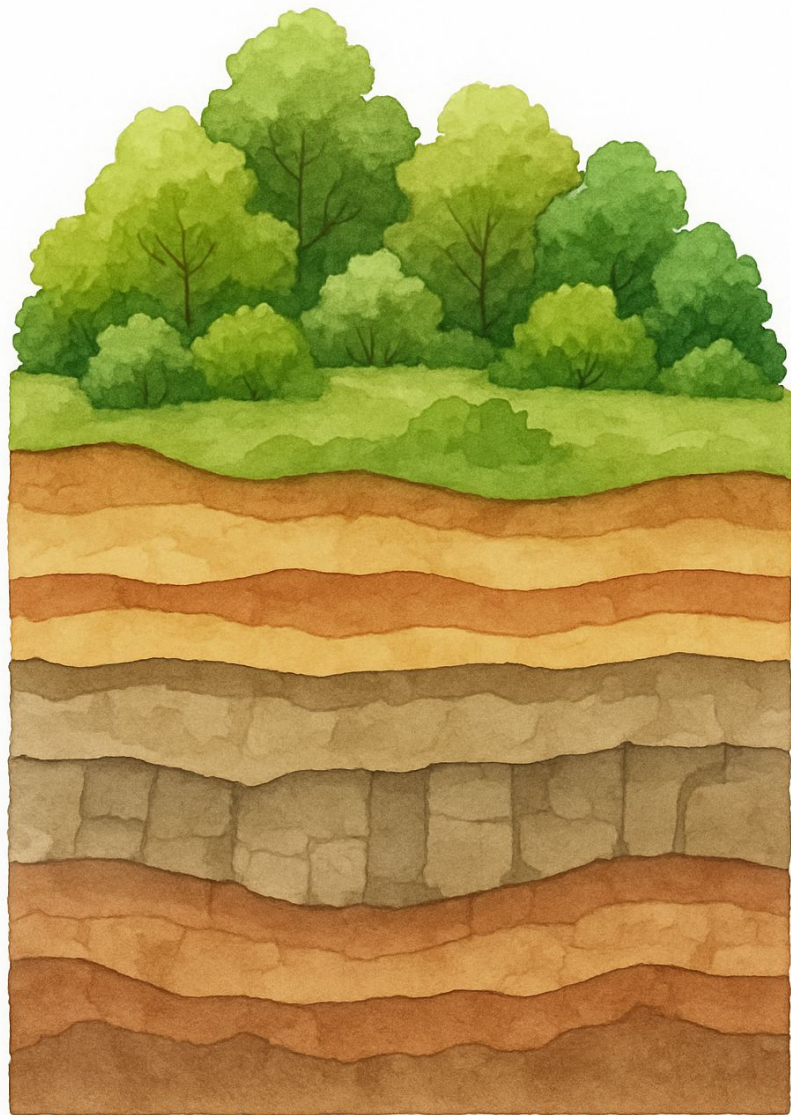


Neo-Holocene（ネオ完新世） 研究会

完新世約1万年間に形成されてきた人間社会と生命圏の関係を振り返り、次の1万年に向けた新たな持続可能性の枠組みを構想する研究会である。

[研究会について詳しく](#)

[参加を検討する](#)



時間軸を1万年へ拡張する

現在の限界

現在の環境政策や持続可能性研究は、2050年・2100年を主要な時間軸として、既存の社会制度・国家・都市・経済・技術の将来像を検討している。

本研究会のアプローチ

時間軸を数千年から1万年へ拡張することで、現在の制度や人間中心な価値観を相対化し、人間社会を生命圏の一構成要素として捉え直すことを目指す。



Deep-Time Future Design

長期的な地球環境変動と文明の限界を見据えた、超長期的未来設計の可能性を探る。



生命圏の持続可能性

人間以外の生命や生態系を含む、より広義の持続可能性概念を構築する。



文明の発展と限界

完新世における文明の発展過程とその構造的限界を多角的に検討する。

研究体制と目標

自然科学・社会科学・工学・Future Designなど異なる専門分野の研究者が、約2か月に1回集まり議論を重ねる。

定期研究会

約2か月に1回、分野横断的な研究者が集い、議論を深める。

学術論文化

約1年後を目途に学術論文として取りまとめ、国際的に発信することを目指す。

1

2

3

概念整理

Neo-Holoceneの基本概念と研究課題を体系的に整理する。

□ 研究会での議論を通じて、次の1万年を見据えた持続可能性の新たな枠組みを国際社会へ提示する。